

2 飢餓を ゼロに



目標 2

飢餓をゼロに

ZERO HUNGER

●この目標(Goal)の解説

この目標の達成は、「世界中のすべての人が、栄養のある適切な食料を十分に持続的にいつでも手に入れられる状態」を指します。現在、世界で十分な食料を生産しているにも関わらず、飢餓人口は8億2,160万人に上り、9人に一人が飢餓に苦しんでいます。更に、2014年以降飢餓人口は増加を続け、10年前の状況に逆戻りしてしまいました。これは、極端な異常気象や紛争や景気後退などが主要因とされています。

目標が達成されない限り、人間は人間らしい社会的生活はおろか、生存すらも危ぶまれる状況です。農業部門への公的支援を行い、農業関係者の権利を守りながら「飢餓を終わらせ、食料安定保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進すること」が目標です。

目標2は農業従事者や栄養関係者のみで実現はできず、目標12の「持続可能な消費と生産」と密接に関わっています。目標を実現するためには、食に関わる過程で「取り残された層」の人権を守り、「誰一人取り残さない」ための方法を、当事者と共に考え、行動することが重要です。日本は栄養状態が良い国の一つです。しかし、食料自給率は約37%で半分以上をを海外からの輸入に頼っています。一方、捨てられてしまう食べ物は年間643万トンに及び、毎日1人1杯のご飯を捨てている計算です。

日本の豊かな食生活を保つために、他の国の自然環境や健康状態を犠牲にしている現状は、持続可能な方法と言えるでしょうか。「飢餓をゼロに」するために私たちがができること。それは、世界の飢餓状況について調べること、毎日食べているものは、誰がどこで作っているのかを知ること。食べ物を無駄にせず、環境マークのついた製品を選択すること。また、確実に成果を上げていくためには、目標17にある通りグローバル・パートナーシップのもとで、国際機関、企業、NPO/NGOなど、多様な立場が知見や技術、資金を出し合って進めていくことが必要です。

日本の豊かな食生活を保つために、他の国の自然環境や健康状態を犠牲にしている現状は、持続可能な方法と言えるでしょうか。「飢餓をゼロに」するために私たちがができること。それは、世界の飢餓状況について調べること、毎日食べているものは、誰がどこで作っているのかを知ること。食べ物を無駄にせず、環境マークのついた製品を選択すること。また、確実に成果を上げていくためには、目標17にある通りグローバル・パートナーシップのもとで、国際機関、企業、NPO/NGOなど、多様な立場が知見や技術、資金を出し合って進めていくことが必要です。

●大学生協での実践事例



京都府立医科大学・府立大学生協(府立大) TFT学生団体との取り組み



「社会的課題を解決したい」という想いを形にした取り組みです。この取り組みを実施するために、想いが一致した学内のTFT団体と協力して行いました。TFT団体にリリパック容器のヘルシーお弁当を考案してもらい、1週間購買で販買しました。1食ごとに20円が発展途上国に寄付できる取り組みです。学生委員会は小規模組織でありながらも、ステイクホルダーと協力することで、取り組みの幅を広げることができたのもポイントです！



熊本大学生協 TFTおにぎりアクション



TABLE FOR TWO (以下、TFT) を通して、健康増進、国際貢献、地球規模の課題に目を向けるきっかけにしてほしいという想いで、世界食糧デーの10/16にTFTやおにぎりアクションに絡めたメニューの販売を行いました。

取り組みにあたり、事前に打ち合わせも重ねることで、学生とパートさんが一緒に関わったこと、組織部員全員がおにぎりアクションの仕組みを理解したうえで取り組めたこと、がポイントです！

●この目標に対して私たちができること

👉私たちができること／自分の大学・大学生協でできることを考えてみよう！